令和7年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
5	川崎市立臨港中学校	迫田 しの

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
・自他を愛し、素直で、誠意ある人の育成 ・責任感強く、たくましく、勇気ある人の育成 ・礼儀正しく、質実、清楚な人の育成	・基本的な生活習慣を身につける中で、自分の良さをみつけ、生活を向上させる力を育む ・互いの個性や特性を理解しあい、より良い人間関係を築いていく力を育む ・学習指導を充実させる中で、基礎・基本の定着を図り、「生きる力」を育む

評 価 項 目		具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	確かな学力の育成	○基礎的・基本的な知識・技能の定着 ○よりきめ細やかな指導のできる体制づくりの推進 ○入り込みによる学習支援、個に応じた指導の推進 ○思考力・判断力・表現力を高める学習指導の充実と工夫 ○進んで学習に取り組もうとする態度の育成	・経験年数にかかわらず師範授業(5つの教科)を全員で観察し、相互の授業も観察しあいながら改善を行った。生徒ｱﾝｹｰﾄの結果からも成果がうかがえる。 ・総合的な学習の時間を中心に探究的な活動を取り入れ、表現活動を重視しGIGA端末等を効果的に活用し授業を行った。 ・学年主任、支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、SCが授業を巡回し、教科を超えた教員の入り込みを行った。困っている生徒を見つけて共有し支援した。1学年は国数英理の半分の授業をTT(ﾃｨｰﾑﾃｨﾁﾝｸﾞ)で行った。つまづきのある生徒にはﾏﾝﾂｰﾏﾝでの指導(取り出し)を行った。 ・各教科ともに年度当初と途中にも生徒が分かるように評価評定の付け方について説明し、研修では教科や学年を超えて信頼性妥当性等について検討した。	・「分かる」と実感できる生徒が増加している。今後も100%を目指し各教科のよい取組を学校全体で共有し進めていく。拡大要請訪問を依頼する。 ・評価評定についても、ｱﾝｹｰﾄでは良い結果がでている。より生徒や保護者が納得し理解しやすくなるよう信頼性・妥当性について全職員で協議し確認する。 ・ｷｬﾘｱ在り方生き方教育、人権尊重教育を土台にして総合・道徳・各教科の関連を意識した年間計画を作成し、推進する。 ・総合的な学習の時間の探究活動と各教科の探究活動をより具体的に推進する。 ・支援教育を充実させ、困っている生徒を教員側から積極的に見つけ個に応じた教科指導の工夫をしながら、早い段階で入り込み、取り出しの授業を行う。
2	いのち、心の教育の推進	○基本的生活習慣の定着 ○生徒指導の充実 ○人権尊重教育の推進 ○道徳教育の充実 ○教育相談活動の定着化 ○いじめや暴力は許さないという学校環境の構築	・登校と同時に職員が生徒を見守り心身の状態を確認し、連絡のない欠席生徒については、朝学活の時間までに家庭 との連携を必ず行い生徒の安全確認等に務めた。 ・教育相談週間を設けｱﾝｹｰﾄと教育相談を行い、生徒理解に重点をおき生徒指導等を行った。問題行動の未然防止にもつながった。 ・人権尊重教育をﾍﾞｰｽに3年生の「生命(いのち)の安全教育」も含めて、先行して専門家による講演会を行った。 ・道徳教育を充実させ、学年会等で授業を検討し全員が授業を行った。 ・生徒指導担当による「生徒指導たより」を新たに発行し、いじめや暴力行為、SNSによる迷惑行為等への注意や未然防止を促した。	・全職員で生徒指導(生徒理解)方針を確認し共通理解を図る。夏季研修等でも生徒指導の情報交換と支援教育に重点をおいた生徒指導やLGBTQ、授業力向上、探究的な活動の進め方等の研修を実施する。 ・再度、教員の話し方や姿勢等を見直し生徒から話しやすい雰囲気を作っていく。 ・人権尊重教育を学校全体で推進し、教職員や生徒の人権に関する意識をさらに高めていく。 ・生徒会活動や部活動、行事運営等で生徒が主体的に考え活発な意見交換をしながら折り合いをつけることを学び、活躍の場を多く設定できるよう、引き続き推進していく。
3	健康、安全教育の推進	○健康・体力の向上 ○自主的に健康な生活を実践することのできる資質や能力の育成 ○安全に関する指導の充実 ○学校敷地内における事故防止 ○大規模修繕工事(第三期)の推進 ○給食のスムーズな運営	・薬物乱用防止教室、健康教育の授業等を実施した。学校医の先生方との連携も深められた。 ・養護教諭が中心となり、生徒の保健委員会が定期的に生徒ｱﾝｹｰﾄをとり、学校課題を生徒が主体的に解決する活動を行った。全校生徒の健康に対する意識が高まった。 ・避難訓練、防災訓練を行った。雨天時にはDVDやワークシート等による学習も取り入れた。 ・校内点検を定期的に行った。危険と思われる箇所があるが、大規模修繕工事と合わせて生徒の安全を第一に市教委と対策について考える。 ・AED研修、アレルギー対応等について職員研修を実施した。	・生徒ｱﾝｹｰﾄより健康に対する意識が高まったことがうかがえた。 ・来年度も他機関と連携し、生徒が主体的に自分の心身の健康状態を意識し考えられる講演会を企画する。 ・学校保健委員会での生徒の発表、本校の健康診断結果からの傾向や学校医の助言や学校全体のｱﾝｹｰﾄ結果等について継続して職員や家庭でも状況が把握できるよう発信する。 ・3年間にわたる大規模修繕工事は無事終了となった。

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
4	家庭・地域から信頼される学校づくりの推進	○生徒の健全育成に向けた学校・家庭・地域との 信頼関係・協力関係の推進 ○地域教育会議との連携 ○ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙの学校評価に基づく教育活動の改善 ○働き方改革を踏まえた地域との連携	・授業参観や学級懇談会を実施した。また月末に2日間の学校公開日を設けて保護者や地域の方に来校していただき学校の様子を見ていただいた。 ・体育祭、合唱コンクール、文化発表会等の学校行事は保護者や地域の方々に参観していただくことができた。 ・学校保健委員会を開催し、生徒、教員、保護者、学校医、学校薬剤師等で現在の課題と解決に向けての協議をした。 ・地域教育会議（町内会）からの依頼で盆踊り等への生徒引率についてパレット（時差勤務）等を使って教員の負担軽減ができた。 ・ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙでは有志生徒20名の参加により活発で充実した意見交換ができた。また最終回には各主任より目指す生徒像と教育活動にについて説明しご感想や意見をいただいた。	・毎月、月末2日間の学校公開日を継続して、学校の様子や授業等を公開していく。 ・学校だよりや学年だよりの定期発行、必要に応じてホームページの更新を引き続き行う。 ・ミマモルメの使用について、全員加入が確認できたら電子データでの手紙配布等を協議・検討する。 ・ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙのさらなる充実した取組を来年度も推進する。
5	支援教育の体制づくり 登校支援	○登校支援のための居場所づくり ○支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ、生徒指導担当、学年主任等との連携による生徒支援の推進	・新たな登校支援室を開設し、長欠傾向だった生徒8名が定期的に通えるようになった。 ・週1回の主任会の場で困っている生徒（学習面、人間関係、いじめを訴えている、家庭で困りを抱えている、体調不良等）の情報を共有し、可能な支援について協議・検討し、実践した。 ・別室の体制について生徒ごとに適切な運営を検討し、利用する生徒と保護者には運営の説明とメリット、デメリット等について説明を行った。 ・入り込みを行ったことで、学習で困り感のある生徒から「個別に学習したい」という要望があり、取り出し授業を行った。生徒の学習に対する意欲が高まった。	・引き続き主任会を行い、そのメンバーを中心に学校全体での個々の生徒への支援方法や実際の対応を検討する。 ・登校支援室、別室の体制については1年を通して行えるように教員配置をしていく。 ・引き続き、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ、生徒指導担当、支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、学年主任等が連携し、早い段階で生徒支援を充実させていく。 ・本校の特徴にあったきめ細かい生徒支援を行うために、教員の人材確保について市教委に要望していく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
・臨港中学校はもうすぐ80周年を迎える。学校創立当初は中学生は未来への希望だった。そして今もそのことは変わらない。様々な方に支えられている事を知り、中学生の皆さんも地域や学校を大切にしていってほしい。 ・今の中学生は忙しそうに見える。でも、学校では行事や部活動等で充実した時間を過ごせていることが分かった。 ・話しやすい先生方がいて、行事も生徒と一緒に楽しむ雰囲気がある。学習や行事、部活動等では仲間を大切にして良い雰囲気で学校生活を送れていると感じる。 ・先生方はやりすぎ（働きすぎ）で、心配している。地域で協力できることがあれば相談してほしい。 ・学校での支援教育の体制や学習支援体制を知り、今の中学生は恵まれていると感じた。 ・ぜひ、今後も（地域の）探究的な活動を行い課題解決のできる生徒を育ててほしい。	・今年度も全職員が学校運営計画をもとに「分かる授業」「評価の妥当性」「生徒理解」「生徒支援」の自己目標を 掲げ、その実現に向けて大切にすべき視点を持ち授業観察を行った。 教員同士がお互いを尊重しながら指導・助言する事が日常的にできた。結果、生徒ｱﾝｹｰﾄの「授業が分かる」の項目でとてもそう思うと答えた生徒の割合が大幅に増えた。学年を超えた職員のつながりもでき、チームで授業について検討することができた。来年度も引き続き協力体制と授業力等の向上を目指す体制を続けていきたい。 ・今年度は1学年を中心に国数理英に教科担任のT2を配置し、生徒の学習支援を丁寧に行った。結果時間はかかったが授業規律が守られ落ち着いた姿勢で授業に取り組めた。来年度も個に応じた支援 を行い、特別支援教育を含む学校全体の支援教育のさらなる充実を目指し、学習で困っている生徒への支援や不登校生徒への支援につなげたい。 ・学校全体で生徒理解に力を入れ情報共有しているため生徒ｱﾝｹｰﾄでも良い結果がでている。一方でで生徒が相談しやすい教職員の雰囲気には、一部に課題が残っている。COを中心とした教職員の研修を行いSOSの出しやすい学校を目指す。